

令和7年度 施策評価シート

施策の大綱	2. 健康で生きがいを持てる暮らしの充実	評価担当者
基本施策	(7) スポーツの推進	教育部長 大平 守
目指す姿	市民が、スポーツを通じて、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送り、また、その技術や記録の向上を目指してスポーツを楽しんでいます。	
関連する分野別計画	第3次亀山市スポーツ推進計画	

SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	3 すべての人に健康と福祉を 	17 パートナリーシップで目標を達成しよう 
SDGs推進の考察	スポーツを推進することは、人々の心身の健康維持に直結し、運動習慣による生活習慣病の予防や健康寿命の延伸につながるとともに、地域のスポーツイベントやプロスポーツチームとの連携等は、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化や健康なまちづくりに寄与できるものとする。	

■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字：主要事業

■成果指標

	指標	単位	現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	市や団体等が主催するスポーツ教室・大会の参加者数	人	11,930	R2	21,242	22,578	26,603	27,964	22,000
2	スポーツ関連団体の構成者数	人	4,423	R2	4,345	4,336	4,323	4,374	4,800
3	市内の主な運動施設の利用率	%	70.3	R2	74.3	74.9	72.7	73.8	76.5
4									
5									
6									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察 (令和6年度施策評価内容を参考記載)
1	スポーツ施設が充実している	重要度	0.87	0.97	0.97	スポーツ施設の充実について、重要度は1次から2次は横ばいとなっているが、現状値からは上昇している。一方、満足度については、1次・2次ともに現状値より高いものの、2次では下降している。
		満足度	▲ 0.20	0.08	▲ 0.05	
2		重要度				
		満足度				
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① スポーツ活動の推進	スポーツ推進委員と連携して市イベントを実施するとともに、総合型地域スポーツクラブ等のイベントへの支援を行った。
② スポーツ団体の育成と競技力の向上	市スポーツ協会を通じて各種競技団体への支援を行うとともに、競技力の向上を図るため、激励金制度等により全国大会等の高レベルの競技大会出場への支援を行った。
③ スポーツ文化の浸透	アトレコ鈴鹿クラブと連携した「亀山市民デー」の実施等によりスポーツを観る機会づくりや、HP等により市主催事業等の情報を発信し運動機会づくりに取り組んだ。
④ スポーツの拠点づくり	指定管理者と連携して運動施設の利用促進を図りつつ、学校体育施設の利用促進を図った。また、各施設の修繕により、適切な維持管理に努めた。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

スポーツ活動の推進では、スポーツ推進委員と連携した壮年ソフトボール大会や新たな種目の導入も行ったニュースポーツ大会等の市主催のイベントのほか、各種団体によるイベントの計画的な実施により、これらの参加者については今年度も増加しており、誰もが参加しやすい機会を提供につなげることができた。また、部活動地域展開については、庁内関係部署や関係団体等と協議・検討を行ったものの、具体化には至らなかった。スポーツ団体の育成と競技力の向上では、様々な競技での全国大会等の上位大会出場者がみられ、市が支援するスポーツ協会をはじめとした各競技団体等の活動により競技力の向上につながっている。また、全国大会等の高いレベルの競技大会出場に対しては激励金の支給等により支援を行った。スポーツ文化の浸透では、運動施設の指定管理者や関係団体によるスポーツイベントの実施により、運動・スポーツを体験する機会づくりを進めた。しかし、スポーツツーリズムや地域スポーツコミッション等を意識した取り組みは行えていないものの、アトレコ鈴鹿クラブと連携した「亀山市民デー」の実施や、HP等により市主催事業等の情報を発信することで、スポーツを観る機会の提供につなげることができた。スポーツの拠点づくりでは、利用者が安全に快適に利用できるよう、第3次総合計画前期基本計画の実施計画に関B&G海洋センターの改修を位置付けた。また、快適な利用環境を提供できるよう適切な維持管理に努め、市内の主な運動施設の利用率は昨年度と比較すると増えているものの、目標指標の達成には至っていない。一方、アーバンスポーツに親しめる環境を引き続き提供しており、幅広い世代におけるスポーツの裾野の拡大につなげることができた。

B

まずは進んだ

今後の展開方針

部活動の地域展開や新たなスポーツ機会の充実など「する・見る・支える」に加え「集まる・つながる」という新たなスポーツへの関わり方が国から示されていることから、競技水準の向上につながる支援を行うなど、地域の特性に応じた取り組みを進める。更なるスポーツ活動の推進に向けては、ニュースポーツ体験会や市民体力テストなど、誰もが参加しやすいイベントの企画を行うとともに周知や応募方法の検討も行い、また、部活動地域展開においては、スポーツ分野の所管が教育委員会に移行したことを好機ととらえ、関係部署や各学校、スポーツ団体等と協議をしながら令和9年度からの実施に向け制度設計を行う。指定管理者や民間機関との連携を図り、スポーツを見たり楽しんだりできる機会づくりに取り組むとともに、運動施設については、利用者の声や指定管理者との協議を行いながら、引き続き計画的な修繕や公共施設予約システムの更新等により利便性の向上に取り組む。